

第二一問

次の文章は、便乗納言『デカ枕草子』第二一四五—四段「人間の鏡」の一節である。これを読んで、後の設問に答えよ。

今は昔、迫真空手部に三浦大先輩おはしけり。田所、木村は三浦の後輩なりけり。

湯殿あがりて、田所の麦酒を求めければ、「冷えつるか」とぞ問ひ給ひ、(ア)いと冷えにけりとぞいらへける。

「三浦こそ、宵なれば空腹し給はむか」と問へば、いみじう空腹せしとぞ。田所言ふに、「(イ)いと近きによき唐麵の屋台なむあるらしければ、宵に行かむ」。

げにといらへ給ひて後、うち見やりて、「(ウ)木村こそ」と。「汝、先頃我等が衣替へし時、うち垣間見けるか」となむのたまひけるに、木村「さらに垣間見ず」とぞ。(エ)な空言言ひそ、しかと見るらむとぞ三浦のたまへば、(オ)なでふ見る由あるらむとぞ木村わななきける。

やがて田所さへ木村をば呼びける。田所「先頃我等の湯殿に行きし時、疾く来ずなりけり」と言えば、「(カ)然りと便乗し給ふ。「ゆかしからば見せむ」と三浦のたまひて、下袴脱ぎて木村に寄りけり。」

〔注〕 ○麦酒——ビール。

○唐麵——ラーメン。

設問

(一) 傍線部ア・イ・ウ・カを現代語訳せよ。なお、傍線部カについてはその発言者が誰であるかも記せ。

(二) 「な空言言ひそ」(傍線部エ)とあるが、三浦大先輩は何が「空言」であると言っているのか。主語を補って、わかりやすく説明せよ。

(三) 「なでふ見る由あるらむ」(傍線部オ)とあるが、木村は何故このように発言したのか、説明せよ。

(四) この文から、三浦大先輩はどのような人物であると読み取れるか、説明せよ。

昔々、迫真空手部に三浦大先輩がいらっしやった。田所、木村は三浦の後輩である。

風呂を上がって、田所がビールを求めると、三浦が「冷えてるか」とお聞きになって、田所は「バッチェ冷えますよ」と答えた。

「三浦、夜中腹減んないすか？」と田所が聞いたところ、腹減ったなあ、と三浦がおっしやった。田所曰く、「この辺に、うまいラーメン屋の屋台、来てるらしいっすよ。じゃけん夜行きましようね」と。

「おっ、そうだな」と三浦が答えなざると、木村の方をちらっと見て、「おい木村！」と呼びなざった。「お前、さつき俺らが着替えてた時、チラチラ見てただろ」と三浦がおっしやると、「えっ、見てないですよ」と木村が答えた。

嘘つけ絶対見てたゾ、と三浦がおっしやったので、木村は「何で見る必要があるんですか」と震え声で言った。田所までも木村を呼んだ。「さつき俺らが風呂行った時、なかなか来なかつたよな」と言ったところ、「そうだよ」と三浦が便乗なざった。

三浦は「見たけりや見せてやるよ」と大声をあげなざって、パンツを脱いで木村に詰め寄った。

デ鎌倉時代(893-1919)の代表的な作品『デカ枕草子』からの出題。

文章自体は平易であるが、文章を正確に訳出するのは一般的に極めて困難である。しかしながら便乗納言『デカ枕草子』第一一四五―一四段「人間の鏡」という極めて有名な作品からの出題であるため、満点或いはそれに近い点数を獲得できた生徒も少なくなかった。

最初に注意すべき点は、筆者が三浦大先輩にのみ敬語を用いている点である。このことから、地の文で敬語が用いられている部分はすべて三浦大先輩のものであるとわかる。

問一……比較的平易な出題。

「いと冷えにけり」は「いと」を正確に訳出すること。「バツチエ冷えてますよ」と書ければ満点である。

「いと近きによき唐麴の屋台なむ来つるらしければ、宵に行かなむ」においては、「いと近きに」「よき唐麴」「宵に行かなむ」の3点が重要である。「いと近きに」は「たいそう近い所に」と精訳することもできるが、「この辺に」とした方が会話文として妥当である。「よき唐麴」は、「よき」をそのまま「良い」と解釈しないこと。

ラーメンが「良い」とはどういうことか、即ち「うまい」のである。「うまいラーメン」と解釈できればよいだろう。「宵に行かなむ」の部分は、直前の文との接続を意識しよう。この部分を単体で解釈すれば「夜行きましようね〜」であるが、「〜くければ」と繋がっているので「じゃけん」を含め、接続を明確にするのがよい。

「木村こそ」は極めて平易。「こそ」の呼びかけの用法が分かれれば、「おい木村！」と訳すのは何の苦もないだろう。なお、「木村さん」のような、優しい呼びかけの語調になってはならない。

「然り」は「そうだよ」と訳出できなければほぼ零点である。「便乗し給ふ」という文も出てきているのであるから、「便乗」即ち「そうだよ」である、と連想することでも解くことが可能である。今の時期にこの有名な表現を知らないというのは受験生としてあるまじき失態であろうが、今回の試験で訳出できなかった受験生は今一度基本的な単語・言い回しに関して学びなおしておくべきである。

問二……基本的な設問。

三浦は、木村が「見てないですよ」と言ったことに対して「空言」と言っているのである。直前部をそのまま用いばよいので、得点することは容易であろう。

なお、誤って、直後の「風呂になかなか来なかった」という部分まで含めてはならない。

問三……やや難問。

「人間の鏡」の後半部を読んだことのある受験生にとっては、一種の引っかけ問題となった可能性がある。
「問題文中の表現のみを根拠とする」原則が頭に入っていないければ、恐らく誤答してしまうことだろう。

確かに「人間の鏡」後半部において「先輩、この者玉さへ舐め出づ。さすがに好かむめり」と木村が玉を舐めていることが指摘されているので、「自分がホモであることを隠そうとしたかったから」と答えたくなる気持ちは分らないものではない。

しかしながら問題文の範囲から拾える根拠としては、「身に覚えのないことを三浦に指摘され、その威圧に畏怖している」ということが妥当であろう。

問四……基本的な設問。

作中で三浦は基本的に自分の意見を言わず、「冷えつるか」「いみじう空腹せし」「然り」など、他人に同意することしかしていない。

この点を鑑みると、「主体性のない人間の屑」と捉えるのが最も適当である。なお、三浦大先輩を人間の鑑と解釈した場合、即座に問四は零点になるので注意されたい。

なお、作中に登場する三浦大先輩、田所、木村はいずれも『ポジ記』にも登場している人物である。三浦大先輩は「便乗」を行う人物として知られており、田所は「王者が風格をば備えけり」、木村は宮中におけるカレーの料理人であることがポジ記に記されている。

『デカ枕草子』『ポジ記』に限らず、『一一四五一夜日記』『平野源氏物語』『聡更級日記』『便丈記』など、受験生として押さえておくべき物語はきわめて多い。受験を目前に控えた今の時期にこそ、1度しっかりと形での演習を行っておくべきであろう。

☆受験生が押さえておくべき、古文に登場する代表的な人物

●野獣先輩（田所）

作品によって野獣先輩、田所と異なった名称が用いられていることがあるが、同一人物である。

野獣先輩と表記される際は、殆どの作品において地の文に敬語が用いられる。ただし他の「先輩」が同時に登場している場面では敬語のみでの識別は不可能。

●木村

名は直樹（なをき）、ないし徹（とをる）と表記される。

元々は迫真空手部の1人であったが、ポジ記の発掘調査により宮中でカレーの料理人をしていたことが判明。宮中では概ね好評であったようだ。

なお、カレーの料理人として、木村の他に田所の名前を挙げている文献もある。

●三浦大先輩（直立不動大先輩）

作品によって「直立不動大先輩」と表記されることもあるが、このような表記をとる作品は少ない。作中に「便乗す」という動詞が出てきた際は、第一に三浦大先輩の存在を考えよう。

●遠野

田所の婿で、宮中の演奏家である。「遠野うちわななきてあそび給ふ」という一節は極めて有名。

●龍田中（種壺更衣）

「くさかるべし」「くさし」という表現が出てきたら、野獸先輩か龍田中のどちらかが必ず登場していることになる。

龍田中はボジ記の中でも特に印象の強い人物である。「ボジ種貰ひなむは、いと心憂かるべし」「拒むを知らざる種壺野郎」等の龍田中が関連する例文は、1度は見たことがあるのではなからうか。